SQUARE
習志野市国際交流協会会報
スクウェア 第128号
2020年(令和2年)1月1日

詳しい記事がNIAホームページからご覧になれます
発行 習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼5-12-12
サンロード津田沼6F 〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
http://www.nia08.com/
nia@jcom.zaq.ne.jp

赤坂迎賓館と防災体験のバスツアーに参加しました
明治の洋館建築の素晴らしさにため息

神鳥 文子 サトウ・ルビー（日本語教室部会）

快晴に恵まれた11月10日(日)、NIA主催の迎賓館赤坂離宮参観と防災体験学習のバスツアーに参加しました。外国人学習者、ボランティア、スタッフ、総勢40名と盛会でした。当日は天皇陛下即位祝賀パレードが予定されていましたが、渋滞することもなく迎賓館に到着しました。途中の車窓からは都心の色づき始めた並木も見られました。またパレードを祝賀する大勢の人々もあちこちで見られました。

バスを降りて迎賓館に入り、青空の下、美しい噴水の主庭で集合写真を撮りました。その後本館に入館、明治時代の素晴らしい国宝洋館建築の中を回りました。大ホールの深紅のカーペットと大理石の床や、輝くシャンデリアの下でゆっくりと鑑賞。朝日の間ではスケールの大きな女神の天井画に圧倒され、要人や首脳会談に使用される会議室では壁の花鳥画や輝くステンドグラスにため息をつきました。学習者は各国の大統領や首相が訪問した時の写真や説明を興味深そうに見たり読んだりしていました。

前庭に出て西洋宮殿を正面から見て、ここでも写真を撮りました。バスに乗り込み迎賓館を後にすると、お楽しみのホテルランチに向かい、ブッフェのランチをお腹一杯いただきました。

江東区有明にある東京臨海広域防災公園に到着。ここでは震災の様子をビデオで見たり、大震災の街でどのように避難するかクイズに答えながら災害の体験ができました。また展示されている震災グッズは参考になり、特に外国人学習者には今後の生活で役立つのではないかと思いました。

朝9時過ぎに出発したバスは帰路もスムーズに走り、夕暮れのディズニーランドや葛西臨海公園の観覧車を眺めながら、時間通り京成津田沼駅に到着しました。スタッフの皆様のお陰もあり大満足の一日でした。

英語チャットのハロウィンパーティーが開かれました
クイズやジェスチャーで ゲームを楽しみました

三代川 朋子 (国際交流部会)

10月28日(月)、サンロード津田沼6階大会議室にて英語チャット参加メンバーがハロウィンパーティーを楽しみました。参加者は全17名。有名アニメキャラクターの小学生など、皆さん思い思いの仮装でパーティーを演出しました。

"〇Xクイズ"はタスカルーサやアラバマ、ALT（外国語指導助手）に関するもので盛り上がり、次のお題を当てるジェスチャーゲームは、喋る英語に精通している方もジェスチャーとなると最初は戸惑い気味でしたが、皆さん時間いっぱいゲームを楽しんでいました。普段とは違った形でアメリカの文化や英語に親しむ機会となりました。

NI-Youthがハロウィンパーティーを開きました
知名度を上げ、 新メンバーの加入を目指して

渡邉 樹 (NI-Youth)

10月27日、NI-Youthはハロウィンパーティーを開きました。参加者はアメリカや中国の出身者も含む全11名。facebookを見て来た留学生もいました。

お菓子の家やハロウィンメイクで、初めてでも話しやすい雰囲気を準備しました。NI-Youthの理念や活動内容を紹介した際に出た疑問や改善点の指摘は、今後に向けて有意義でした。その後"国旗ビンゴ"を行い、参加者の１人で習志野市のALT（外国語指導助手）ダンカンさんの協力で各国の名称を学びました。

新メンバーの紹介と既存メンバーとの交流という今回の目的は達成できました。

国際交流部会が勉強会を開催しました
SDGsの視点から地域国際交流を考えよう

原 リー あんず（国際交流部会長）

9月14日(土)、サンロード津田沼6階大会議室で、国際交流部会主催の協会員向け勉強会『SDGsの視点から地域国際交流を考えよう』が行われました。

今、国際交流部会は、年齢性別や国籍を問わず、幅広く個々の主体的なボランティア活動を尊重し、パートナーシップ（協働）によるより良い習志野市の共生社会づくりを考える活動を目指しています。

これまで4月より毎月、神田外語大学の石井雅章さんを講師にお招きしてワークショップを行ってきましたが、今回は最終回、『SDGsを自分ごと化するためのワーク』として、習志野市の国際交流について考え、学びました。

この日は10代から70代までの協会員と関係団体から計25名が参加し、グループワークとディスカッション、最後に石井さんによる全体説明で、たっぷり3時間を楽しく有意義に過ごすことができました。終わってみて、私たちにできることは身近なコミュニティー内での交流であることをあらためて実感しました。

1人1人が当事者意識を持って「自分ごと」化すること、それを身近な人と共有できるのはまさに交流からです。多様化する社会の中で、時代にあった身近な交流について、常にあらゆる方向にアンテナをはりながら、さらなる活動への意欲をかき立てられる勉強会となりました。

《2015年の国連総会で採択された『持続可能な開発目標（SDGs）』では、あらゆる人たちが属性や能力に関わらず、人間らしく生きていける持続可能な社会づくりが目指されています》

石井雅章氏プロフィール

神田外語大学　言語メディア教育センター長。准教授。市民や自治体、企業向けにSDGsを開発、実践し、SDGsの『自分ごと化』について活動している。

国際交流部会とNI-Youthが「実籾ふる里祭り」に参加しました

野中 泰子（国際交流部会）

国際交流部会は11月3日(日)、京成実籾駅前商店街で開催された「実籾ふる里祭り」に参加しました。テントに設けたブースで、写真などの資料を使って姉妹都市タスカルーサ市との交流活動の紹介や、子ども向けクラフト教室を行いました。

小雨が降る時間帯もありましたが、延べ100名近い方が訪れました。子どもにはクリスマスツリーに飾る雪だるまのオーナメント作りを楽んでもらい、大人には、部会員が高校生受入派遣事業の説明を行いました。訪問者の中には、来年夏タスカルーサ市から高校生が来る時のサポートボランティアや、将来子供の派遣への参加に興味を持つ方もいて、収穫の多いPR活動となりました。

「実籾ふる里祭り」で楽しく地域交流 NI-Youthの仲も深まりました

谷口 真里奈（NI-Youth）

今回の実籾ふる里祭りでNI-Youthは、タスカルーサ市青少年受入派遣事業や今まで行ってきたイベントの資料展示、小さい子ども向けのゲームを行いました。

ゲームでは、ボールを的に向かって投げてもらい、当たった国のお菓子を景品としました。参加した子どもたちに国旗を見せて「どこの国だか分かる？」などと質問したところ盛り上がりました。小さな子どもでも、私が思っていたより国名を答えていたので驚きました。今後このような機会には国旗の種類を増やし、クイズなどを行ったらもっと盛り上がりそうだと思いました。

宮本習志野市長が来てくださった際に、大使館を回って世界中の「こんにちは」を録音で集め、それを流してカルタをする「こんにちはカルタ」という提案がありました。興味深い話でした。なかなか話す機会のない市長さんと話ができたのはとても良かったです。また、市長さんがかつてNI-Youthだったことも知り、親近感が湧きました。今回、NI-Youthに新しく入った人たちとも仲良くなり、良い機会だったと思います。

姉妹都市タスカルーサを英語で学ぼう！

島田 早織（NI-Youth）

昨年(2019年)の4月から、新しくNI-Youth向けの英語チャットが始まりました。"アラバマ州出身のALT（外国語指導助手）と英語で姉妹都市タスカルーサについて学ぶ"ことを目的として、月に2〜4回程度1時間の間に英会話やゲームを行っています。習志野市に3人いるALTがローテーションを組んで、そのうちの1人が毎回講師として来てくれます。参加者は高校生から大学生が多く、普段は英語を話す機会がない人も、同年代の人と一緒に定期的に英語を話すよい機会になっていると思います。

毎週1時間もみっちりと英語だけを話すと、チャットの後は日本語脳と英語脳が混ざった状態になることも多いです。さらに、アウトプットの場所が確保されることで英語の学習(インプット)へのモチベーションにも繋がります。また、ALTの方から、タスカルーサで育った経験、また日本に対する見方、同じアメリカでも地方による考え方の違いなどを聞き、私は、派遣生としてタスカルーサ市を訪れた経験とあわせ、多くのことを考えさせられたこともあります。

英語を人前で話すことに抵抗がある人には、少人数の前で外国人の先生を交えて話すので、学校の授業に比べるととても英語を話しやすい環境だと思います。基本的に月曜日の16:00〜17:00、サンロード津田沼5階のフリースペースで行っています。NI-Youthに関わったことがない人も、とりあえずチャットだけ参加してみたいという人も大歓迎です。興味がある学生の皆さんはぜひ一度いらしてみてください。

日本語教室が谷津南小の「どひゃっと祭り」に参加しました
興味や自信につながる大切な機会

伊東 稔雄 (広報部会)

今年度の「どひゃっとまつり」が谷津南小学校において、11月16日（土）に開催されました。当日は、校庭、体育館や教室においてさまざまなイベント等が催され、大盛況の1日となりました。

日本語教室部会の「世界を知ろうサポートプラン」が中心となり、日本語教室で学ぶ外国人学習者や地域に住む外国の方（11の国と地域）とともに参加、子どもたちとの交流が図られました。子どもたちは受付で「世界をつなぐサイン集めラリー」の用紙をもらい、各国のテーブルを回りサインとシールを集めます。そして最後に受付に戻ってくると、お菓子をもらうことができます。子どもたちの積極的に外国の方々と会話する姿が多く見られました。また、保護者のみなさんや地域の方々も興味深く参加している姿もありました。どの国のテーブルも大賑わいでした。外国の方々が積極的に話しかけたことと同時に、民族衣装をはじめ、その国固有のいろいろな物が用意されたことも大きかったように思います。具体的には、楽器、コインや民芸品などです。外国の方々とコミュニケーションが取れた時の子どもたちのうれしそうな笑顔があふれていました。外国の方々も同様の笑顔でした。

グローバル化が急速に進展する現在、小さい頃から外国の方々と接し、各国の文化や伝統に触れ、また日本の文化や伝統も発信していく姿勢がますます大事になっていくのではないでしょうか。そういう意味で、今回の交流は大切な機会であったように思います。子どもたちにとっては、喜びと同時にさらなる興味や意欲、また自信にもつながる時間であったと思います。また外国の方々にとっても、自国の紹介ができる良い機会であったと同時に、同じ地域に住む一員としてより深く地域に関わるきっかけになったのではないでしょうか。

どこの国の人といった小さな枠ではなく、同じ星に住む人間として心の交流ができ、一体感を持つことができた有意義な時間であったように感じました。

日本語教室で華道体験教室が開かれました

10月7日（月）9日（水）10日（木）の日本語教室の際に、希望者を対象に華道体験教室が開かれました。学習者26名、ボランティア12名が体験。見学や担当のボランティアも含めると、3日間でのべ65名が参加しました。

水曜日の体験教室に参加したフィン・ティエン・キムさん（ベトナム出身）が、感想を寄せてくださいました。担当ボランティアの井上満智子さんと一緒に、初めての日本の生け花を楽しまれたようです。

華道教室に参加して

フィン･ティエン･キム (ベトナム、水曜教室)

私はフィン･ティエン･キムです。ベトナムからきました。おはなたいけんきょうしつにさんかしました。日本のいけばなははじめてです。

日本のいけばなはきれいです。それぞれはなのいちはとくにいみがあります。いちばんたかいのはちちです。にばんたかいのははははです。さいごはこどもです。さくひんはかぞくとおなじです。ベトナムにもいけばながあります。でも私はべんきょうしませんでした。ときどきじぶんのやりかたでやりました。ですからきれいじゃありませんでした。

おはなたいけんきょうしつにさんかして、先生にやりかたをおしえてもらって、いまはちょっといけばなをしりました。

いまはじぶんでちょっときれいなさくひんができます。おもしろいです。ほんとうに先生にありがとうございますといいたいです。

習志野市青少年海外派遣事業
姉妹都市交流派遣生募集

習志野市の姉妹都市、アメリカ南部タスカルーサ市で派遣生として夏を過ごしてみませんか？
現地高校生の家にホームステイして、楽しいアクティビティがたくさん。語学研修というより異文化体験なので、英語が苦手な人も得意な人もぜひ応募してください

期間：2020年7月21日～8月3日　14日間
募集人数：4名程度（派遣生全体で20名）
対象者：2020年4月時点で習志野市に在住、かつ高等学校に在学している人
費用：1人30万円程度
（最終見積で変更あり）
申込み・お問合せは事務局まで

姉妹都市青少年受入事業
ボランティアを募集します

2020年6月、アメリカ・タスカルーサ市から20名の高校生が習志野市を訪問します
・習志野市内外観光等の付き添い
・習志野市内高等学校見学の付き添い
・歓迎会etcの設営、準備の手伝い他
私たちと一緒にボランティアをしませんか。申込み・お問合せは事務局まで

派遣生交流会開催

姉妹都市タスカルーサを実際に訪問した派遣生の話を聞いてみませんか？
日時：2020年1月12日（日）13時～15時
場所：サンロード津田沼6階　大会議室
申込み：2020年1月9日（木）までに、電話かメールで事務局へ
保護者向け説明会も同時に開催します

トロントから、犬との生活から共生社会を考える

原 リー あんず（国際交流部会長）

私はカナダの永住権を持っていて、その更新手続きのために現在トロントに戻っています。今回日本から愛犬を連れて戻りました。犬との生活は初めてです。

さて、４年ぶりに戻ってきて1ヶ月が経ちますが、驚いたのはこちらの犬たちの生活です。私が住んでいるダウンタウン付近では犬の数は東京よりも多い気がします。マンションには様々な犬が暮らしていますし、日中夜問わず、オフィス街でも犬がよく散歩しています。もちろんよくしつけされている礼儀正しいお利口さんばかりです。

こちらではそれこそ犬種の坩堝(るつぼ)で、ミックスブリードが主流です。しかも「血統種」という言葉はタブーです。人々は人種差別に敏感なだけに犬種差別に対する意識も強く、私も犬の犬種の話には常日頃気を使っています。犬を生活のパートナーとして尊重する考え方は、日本のペットに対する考え方とは異なります。ペットショップは命の売買とみなされ違法ですし、犬の車内置き去りも違法です。犬の行動範囲は広く、スーパーとレストラン以外は基本的にどこにでも入れます。

私の考えでは、トロントのような共生社会は、歴史の浅い移民国家で社会主義寄りな国でこそ成立する独自のあり方だと思います。長きにわたり平等に教育を受けてほぼ単一民族として伝統を受け継いできた日本は、多くの常識を共有し、その中に変わらぬモラルが存在します。歴史や文化の異なる人を受け入れる共生社会は、お互いの譲り合いと自己責任が成立してこそだということをあらためて犬との生活の中で感じています。初めて日本からトロントに来た愛犬がここに馴染んでいくのを見ていると新鮮で新しい発見があります。

広報から

■メールマガジンに読者登録を
スクウェアの電子版「メール・スクウェア」を毎月１回、配信しています。無料です。
配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレスniasquare@jcom.zaq.ne.jpまで。

■原稿をお寄せください
イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局またはniasquare@jcom.zaq.ne.jpへ。

■スクウェア編集部員を募集しています
一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。